



▲ JR 宇都宮駅東口の様子

わかるかな？

右の①～④は、何の写真でしょうか？名前と番号を線で結んでみましょう。



①

②

③

④

東北新幹線

LRT (ライトライン)

東武宇都宮線

J R 宇都宮線

5 宇都宮の交通



つかむ

宇都宮の交通について、話し合ってみましょう。



▲都心循環バス「きぶな」

中心市街地において、宇都宮駅を発着とした、公共施設や商業施設などを一周りするバス路線。観光や市民の足として親しまれています。

わたしたちの生活と産業をささえて

宇都宮は、昔から多くの人が行き交うまちでした。交通の発達と宇都宮の発展の関係の歴史をたどり、これからの宇都宮について考えていきましょう。



宇都宮には、なぜ昔から大きな道が通っていたの？



昔はどんなものを運んでいて、どのような方法を使っていたの？



宇都宮の交通は、どんなふうに進達してきて、これからはどうなるの？

学習問題

なぜ宇都宮は多くの人が行き交うまちになったのでしょうか。



関連する単元だよ

- 3年 → 社会 ● わたしたちの市や生活の様子 のうつつりかわり
- 4年 → 社会 ● わたしたちの栃木県
- 5年 → 社会 ● 工業生産を支える運輸と貿易

調べる

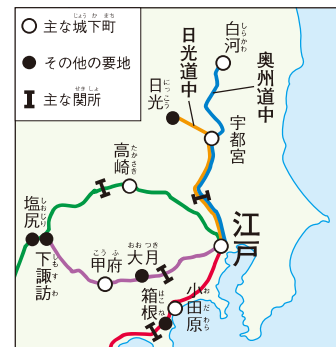
宇都宮の交通の発達について調べましょう。



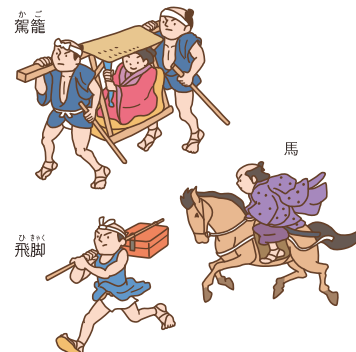
宇都宮の道の歴史

1 江戸幕府が必要とした街道のまち

江戸時代、江戸を起点に5つの街道が整備されました。そのうち、江戸と日光を結ぶ「日光道中」、江戸と東北を結ぶ「奥州道中」があり、2つの街道の分岐点で宇都宮にありました。そのため、多くの人やものが行き交い、宇都宮は交通上・軍事上の重要地点として考えられました。宇都宮を通過していた「日光道中」と「奥州道中」を元に、現在の主要な国道が作られ、さらに宇都宮は発展していきました。



▲江戸時代の五街道の中の宇都宮



▲江戸時代の運送手段

現代の宇都宮の道路 (昭和～平成)

1 東北自動車道の完成

1972 (昭和47) 年に東北自動車道が埼玉県の岩槻と宇都宮の間で開通し、物流などの運送のスピードが飛躍的に向上しました。

2 北関東自動車道の完成

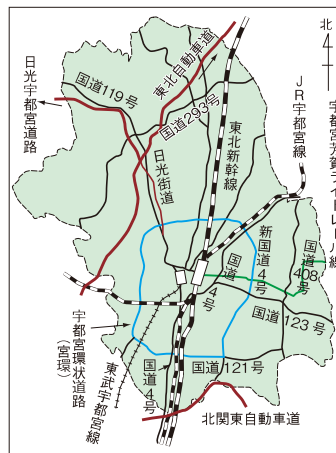
2011 (平成23) 年には北関東自動車道が全線開通し、南北と東西の高速道路が交わり、人やものの交流がますますさかんになりました。

3 宮環の完成

市街地を一周する「宇都宮環状道路 (通称:宮環)」が、1996 (平成8) 年に完成しました。



宮環ができたことで宇都宮のまちはどんなふうになったのかな？



▲宇都宮市の鉄道や次世代型路面電車、道路



▲JR宇都宮線（東北本線）



▲初代東北新幹線の車両200系



▲東武宇都宮線



▲芳賀・宇都宮 LRT（ライトライン）

宇都宮の鉄道・軌道

1 東北本線の開通

1885(明治18)年に、大宮から宇都宮まで鉄道が開通し、JR宇都宮駅も開業しました。その後、1890(明治23)年に日光への路線が開通し、1891(明治24)年には、現在の東北本線の上野～青森間が全線開通しました。

2 念願の東北新幹線開通

1982(昭和57)年、大宮～盛岡間で東北新幹線が開業しました。1991(平成3)年には、東北新幹線の東京駅乗り入れにより、交通が便利になりました。



東京駅から宇都宮駅まで東北新幹線で約50分くらいかかるよ。

3 宇都宮市と栃木市を結ぶ東武宇都宮線

宇都宮が関東北部におけるビジネスや商業の拠点であることや、東武宇都宮駅がターミナルデパートと直結していることなどから、主に通勤通学利用や買い物での利用が多いのが特徴です。

JR東日本の「宇都宮線」が東北本線の愛称であるのに対し、「東武宇都宮線」は正式な線路名称で、宇都宮市の中心部と壬生町・栃木市をつなぐ路線です。

4 次世代型路面電車 芳賀・宇都宮 LRT(ライトライン)の開業

2023(令和5)年、市の東西方向の公共交通の軸としてJR宇都宮駅東口～芳賀・高根沢工業団地で芳賀・宇都宮 LRT(ライトライン)が開業しました。

LRTはLight Rail Transit(ライトレールトランジット)のことで、最新の技術が反映された次世代型の路面電車です。さらにJR宇都宮駅西側への延伸に向け、現在検討が進められています。

まとめる

宇都宮の交通について調べたことをまとめてみましょう。

ワークシート

SDGsとの関連



江戸時代の道路	
現在の宇都宮の道路	
宇都宮の鉄道	

ひるげる

宇都宮の交通について考えてみましょう。

鉄道では、蒸気機関車から電車・新幹線へ、道路では、馬が自動車に変わり、国道や高速道路などが整備されました。交通の発達により産業は発展し、わたしたちの生活は便利になっていきました。

交通の発達は宇都宮の発展に大きな役割を果たし、わたしたちの暮らしに欠かせないものになっています。こうした交通網の整備に力をつくしてきた人びとの苦勞を思い、未来のまちづくりを考えていきましょう。

宇都宮は、昔から人やものがたくさん行き交ってきたんだね。



ライトラインが走るまち



地域連携ICカード (totra)

「totra」は「総合的 (total) に輸送 (transportation) をつなぐICカード」という意味にちなんで名前が付けられています。



交通未来都市
UTSUNOMIYA
OPEN
SQUARE



交通未来都市うつのみや オープンスクエア

宇都宮のまちづくり・未来、ライトラインを基軸とした公共交通の発展など、これからの宇都宮を知ることができる情報発信拠点。

電力供給の工夫

クリーンパーク茂原のバイオマス発電で作られた電気や、市内の太陽光発電などの電気を宇都宮市の市有施設やライトラインなどへ供給することで、再生可能エネルギーの地産地消や普及拡大、二酸化炭素排出量の削減、および地域経済の活性化を推進します。



地域由来の再生可能エネルギーで

ごみ処理施設「クリーンパーク茂原」バイオマス発電

市内の家庭用太陽光発電

UJLP

宇都宮ライトパワー

家庭ごみや太陽光で発電された再生可能エネルギーを消費し、再生可能エネルギーの地産地消を促進する地産新電力会社です。

ライトラインが走る!

二酸化炭素排出ゼロ環境に優しい!

ゼロカーボン・脱炭素



飛山城史跡公園



車両基地

車両点検を行う検修庫など運行を担う重要な機能が集約されています。



ライトラインは駅西側へ
JR 宇都宮駅西側での開業に向けて各種検討を進めています。



人と物が行き交う うつのみや

物流を支えた 鬼怒川の水運

▶ p.61

先人の知恵や工夫



▲人車軌道貨車（大谷石材協同組合蔵）

今の犬谷街道に人車が走っていたんだね。



▲軽便鉄道の蒸気機関車（大谷石材協同組合蔵）



▲大谷石輸送駅構内の様子（大谷石材協同組合蔵）

人車軌道や軽便鉄道の様子を動画で確認してみよう。



鉄道からトラック輸送にかわったのは、トラックのほうが石を積み直す回数が少ないから、石をいために運べたからなんだって。



大谷石の輸送のうつりかわり

大谷石の本格的な採掘は、江戸時代から始まったと言われてい
ます。採掘された大谷石は、はじめは馬で運ばれ鬼怒川の水運で
江戸まで運ばれていました。やがて、大谷石はさまざまな輸送手
段で運ばれるようになりました。

石材として軽くて、加工しやすく、火に強い大谷石は、住宅や
くら、倉庫などさまざまな建築物に使われるようになり、宇都宮
市内だけではなく、多くの地域に出荷されるようになりました。
ここでは、大谷石の輸送について見ていきましょう。

馬から人車軌道へ

1896（明治29）年には、大谷石の輸送量拡大を目的に、宇都宮軌
道運輸株式会社が設立され、人車軌道^{※1}が建設されました。人車軌道
が建設されると、馬や馬車と比べて、多くの大谷石を運ぶことが
できました。1903（明治36）年には、現在の鶴田駅まで人車軌道がのびされ、
鉄道を使って大谷石がいろいろなところへ運ばれるようになりました。

人車軌道から軽便鉄道へ

首都圏を中心に都市が整備されると、大谷石がますます求められる
ようになりました。人車軌道の貨車が足りないため、集石場のある荒
針駅^{※2}では運びきれずに、出荷する大谷石がたまってしまいました。
こうした状況を改善するために、1913（大正2）年に荒針駅から鶴田
駅まで石材用の軽便鉄道が作られました。これにより、蒸気機関車で
大量の大谷石を運ぶことができるようになりました。1931（昭和6）
年になると、宇都宮石材軌道株式会社は東武鉄道株式会社に合併され
て、軽便鉄道は東武鉄道大谷軽便線となり、さらに西川田駅まで路線
はのびていきました。

軽便鉄道からトラック輸送へ

1930年代になると、石材の輸送は少しずつトラック輸送にかわっ
ていきました。大谷石を運んでいた人車軌道の路線はしだいに縮小し
ていきました。1964（昭和39）年には、大谷軽便線も全て廃線となり、
ほとんどの輸送手段がトラックとなりました。

※1 人が客車や貨車をおす鉄道。宇都宮では、大谷石や人を運ぶときに多く用いられた。

※2 荒針駅は、現在の城山地区市民センター付近にあった。



宇都宮と駅弁



1885（明治18）年7月16日、日
本初の私鉄である日本鉄道が大宮から
宇都宮まで延伸されて宇都宮駅が
開業、そして駅弁が発売されまし
た。この日、宇都宮の旅館・白木屋
が、竹皮に包まれたおにぎりを販売。
梅干し入りのおにぎり2個にごま塩
をふりかけ、たくあん二切れといっ
しよに竹の皮に包んで販売されたとい
うことです。



（野澤崇晶家文書）

江戸時代に、東北地方と江戸を結ぶ物流のルートとして鬼怒川の
水運が整備されました。水上交通がさかんになり、数多くの河岸（川
の港）が作られました。鬼怒川ぞいには阿久津、板戸、道場宿、鎌
山、石井、桑島などに河岸が作られ、たいへんにぎわいました。

積み荷は、木材・米・薪炭・タバコ・真岡木綿・大豆・小豆など
の生活物資が中心でした。江戸からの帰りの荷は、塩・茶・小間物・
鉄製品（くわ、かま、刃物類）・肥料などでした。江戸との交流に
より江戸の文化が持ちこまれて定着し、河岸を中心とした文化が栄
えました。

舟の物流で栄えた河岸は、明治以降、鉄道が発展していくにつれ
徐々にすがたを消していきました。最初に開通した北へ直進する鉄
道のルートが、たび重なる鬼怒川の洪水によって運行中止が続いた
ため、1897（明治30）年、宇都宮駅を出ると北東にカーブする現
在のルートに変更になりました（岡本駅と氏家駅が開業、古田駅と
長久保駅が廃止）。

こういった鬼怒川と鉄道との関係にも、宇都宮の交通を便利にし
ていくための、当時の人たちの苦勞を知ることができます。

参考に見ましよう



【郷州鉄道の野州鉄道】 大町雅美
東北本線など幹線にとどまらず人車、軌道、未完
の計画線にもはば広くスポットを当て、県内鉄道
の全貌を明らかにします。なつかしい写真、地図
をはじめ時刻表、切符など資料多数。



▶板戸河岸のあとにある川の一里塚